

農村伝道神学校学報

学校法人鶴川学院
農村伝道神学校
発行人 高柳 富夫

「始めとしての終わり」

—福音の批判的伝道を—

荒井 献



卒業おめでとうございます。高柳校長もこの三月で退任されるので、今日の卒業式は農伝の歴史にとって節目の時にするのではないかと、そのような時に私がメッセージを依頼されて、いささか忸怩たる思いでここに立っております。

さて、私は二七年前、一九九一年三月一二日に、東京大学において「プロローグとしての

エピソード—マルコ福音書二六章七—八節に寄せて—」というタイトルで最終講義をしました。この講義で私は、一見唐突に終わるマルコ福音書のエピソード（七—八節）は、読者にとって自らの読書行為と宣教行動のプロローグとして機能する、というテーゼを提出しました。そして、使徒行伝の注解を完結した段階で（二〇一六年）、やはり唐突に終わる行伝二八章三〇—三二節にもこのテーゼを適用することが可能である、という結論に達しました。

ただし、マルコの場合は、福音書の読者に対して、イエス物語の「物語時間」（物語の中で予想されている時間

安全保障関連法廃止！
辺野古新基地建設反対！



対して、ルカの場合は、イエス物語と使徒たち／パウロの物語の「物語時間」をエルサレムから「もろもろの国民に」（ルカ二四・四七）「地の果てに至るまで」（使一・八）イエスを証する未来に設定し、イエスの誕生からパウロの最後の活動に至る「配列された時間」を越えて「神の王国」と「主イエス・キリストについての」との宣教を促しています。

この関連から、もう一つ注目しておきたいのは、ルカは福音書におけるイエス物語と行伝における使徒とりわけパウロ物語を読者に対する規範として記していることです。しかもそれは、単なる反復すべき規範ではなく、批判的に継承すべき規範なのです。このことは、ルカ文書全体のプロローグとみなさるべき、読者の代表「テオフィロス閣下」への献辞を読めば明らかです。ルカはこの中で、Q文書やマルコ福音書などの先行文書を改めて「順序立て」批判的に記し直すことを意図しております。

以上のことを確認した上で、今日の聖書テキスト（使二八・

三〇—三一）を読んで見ましょう。「彼（パウロ）は、自分の借家に、まる二年間住んだ。そして、彼のもとを訪れて来る者をことごとく迎え入れた。実に大胆に、妨げられることもなく、神の王国を述べ伝え、また主イエス・キリストについてのことを教え続けて」（私訳）。

この句は、行伝全体を締めくくる「まとめの句」であると共に、パウロの宣教活動全体を締めくくる「まとめの句」であります。前述のように、ルカはこの句をもって、行伝の読者に対し、ローマにおけるパウロの「まる二年間」にわたる宣教活動を、批判的に継承すべき規範として提示しているのです。これは、ルカによれば、行伝の読者、いわば「教会の時」に属する私たちに対する、教会のはじめの時の代表・パウロの遺言なのです。これを私たちは現代においてどのように継承すればよいのでしょうか。

まず、それは「神の王国を述べ続ける」こと。ルカにとって「神の王国」は、イエスの福音の総括的術後になっていきます。だから、それをルカは、「主イエス・キリストについてのことを教え続ける」といふことと置き換えることができるのです。しかも、「神の王国」

とは、ルカにとって、「イエスの福音」の総括的述語なのですから。そして、イエスにとって「神の王国」とは、人間をとりわけ現実社会における弱者を生かそうとする神支配な



く、それによって迫害されることもなく」となるでしょう。この句には、ローマ皇帝による迫害下になかった、ルカ文書執筆の時代（九〇年代中期）背景が反映されている、と想定されます。

のです。しかも、ルカによれば、パウロはそれを、「実に大胆に、妨げられることなく」述べ伝え続けた、といわれる。換言すれば、「ローマ帝国支配下にある何ものをも恐れることな

の第一歩を踏み出すことができ、模式的伝道へ終わらせていただきます。 (二〇一七年度第六八回農村伝道神学校卒業式メッセージより。二〇一八年三月七日)

いずれにしても、ルカは読者である私たちに、宣教の終わりに立つパウロをして、宣教活動の始めに立つ私たちに、福音の批判的伝道への道筋を提示させている、と結論できるのではないでしょう。この場合の「批判的」とは、第一に、聖書を含む私たちに先行するキリスト教文書に対して（ルカ一・一四参照）、そして第二には、弱者を犠牲に強者を志向する現実社会に対して（ルカ一・五一一五三参照）であります。皆さんに、神学教育の終わりを宣教の始めとして、批判的伝道へ

へ新校長自己紹介

日本で育てられて

ロバート・ウイットマー



私は一九四八年、カナダのオンタリオ州に生まれ、五大湖のヒューロン湖に面しているゴドリッチと言う人口五千人位の小さな港町で育ちました。両親はレストランを経営し、家族と一緒に食べることは珍しく、ほぼ毎日メニューから好きなものだけを食べていました。その結果、食べるものが限られ日本に来てから初めて食べた物が非常に多いです。母の兄弟は皆農家で、夏休みには従弟の農場に行き、土と家畜にふれる機会が与えられました。

カナダ合同教会議長になったロバート・マックルアーさんに会った時に「もし海外に行くなら、教会を通してがいいよ。教会は世界中にパートナーがいるから。」と言われ教会に問い合わせました。私の資格で韓国、香港、日本の可能性があると言われ一九六四年の東京オリンピックの思い出がまだ新鮮だったので一九六九年九月に短期教育宣教師として日本に来ました。

ター、地方の教会の礼拝などの協力をしました。一九七五年に道北センターのハウレット宣教師夫妻が本国活動で一年間カナダに行っている間、道北センターを手伝う事になり圭子と二人で名寄へ飛んで行きました。それはさらなる雪と寒さを求めるためだけではなく、地方で働きたい、そして地域と教会に深く関わっているセンターで働きたいと思っただけです。ハウレット宣教師夫妻が名寄に戻りさらに一年間共に働いた結果これからも道北地区と道北センターで働きたいと言う思いが強まりました。そのためには牧師になった方がいいと判断し、一九七七年〜一九八〇年までカナダのトロント神学大学に所属するカナダ合同教会インマヌエル神学校で学び、按手礼を受け、一九八〇年八月に日本と名寄に戻りました。次年の五月にハウレット宣教師夫妻は帰国し、私は道北センターの館長となり、新しい歩みが始まりました。

子どもの時から遠い所に憧れ、高校を卒業した時に五〇〇キロも離れていたクイーンズ大学で歴史、哲学、英文学を勉強しました。在学中もさらに遠い所に憧れていました。元宣教師で初めて信徒で

三年の任期で英会話と英文学を教える予定でしたが、途中で浦河出身の木戸圭子と出会って、一九七三年に結婚し、短期宣教師から長期宣教師に立場が変わり、圭子もカナダ合同教会の宣教師になりました。札幌で五年間を過ごし、北星で英語を教えるだけでなく、ラジオ伝道放送のホレンコ、喫茶店伝道、北海道クリスチャンセンター、道北セン

ター、地方の教会の礼拝などの協力をしました。一九七五年に道北センターのハウレット宣教師夫妻が本国活動で一年間カナダに行っている間、道北センターを手伝う事になり圭子と二人で名寄へ飛んで行きました。それはさらなる雪と寒さを求めるためだけではなく、地方で働きたい、そして地域と教会に深く関わっているセンターで働きたいと思っただけです。ハウレット宣教師夫妻が名寄に戻りさらに一年間共に働いた結果これからも道北地区と道北センターで働きたいと言う思いが強まりました。そのためには牧師になった方がいいと判断し、一九七七年〜一九八〇年までカナダのトロント神学大学に所属するカナダ合同教会インマヌエル神学校で学び、按手礼を受け、一九八〇年八月に日本と名寄に戻りました。次年の五月にハウレット宣教師夫妻は帰国し、私は道北センターの館長となり、新しい歩みが始まりました。

道北地区と道北センターで幅広い働きをさせていたいただきました。地区の小規模教会の代務牧師、家庭集会、補教師の聖礼典の協力をしました。その他にも地区の様々な活動担当をしました。センター活動として、英語を教え、

道北地区と道北センターで幅広い働きをさせていたいただきました。地区の小規模教会の代務牧師、家庭集会、補教師の聖礼典の協力をしました。その他にも地区の様々な活動担当をしました。センター活動として、英語を教え、

道北地区と道北センターで幅広い働きをさせていたいただきました。地区の小規模教会の代務牧師、家庭集会、補教師の聖礼典の協力をしました。その他にも地区の様々な活動担当をしました。センター活動として、英語を教え、

「神を愛し、人を愛し、土を愛する」の方針に基づく道北三愛塾とそれによって生まれた活動を行い、求道者や信徒のための研修会などを行いました。一九八三年、道北センターの建物に無認可の精神障がい者の通勤寮「緑ヶ丘寮」が誕生し、一九九〇年に社会福祉法人「道北センター福祉会」になりました。道北（クリスチャン）センターとは別の建物と組織になりましたが、一九九六年〜二〇一七年まで理事長でした。

北海教区においても長期宣教計画、社会問題、アイヌ民族の課題などに関わる働きをし、また常置委員として四期働きしました。

北星学園大学の時代に共に翻訳する機会が与えられたことをきっかけに多くの人々の協力と助けがあつて日本のキリスト教の歴史と課題を英語で紹介し、またカナダ合同教会の資料や本を日本語で紹介する働きが出来ました。

農村伝道神学校で何よりも学生ともスタッフとも農村(地方)宣教の豊かさと現実を分かち合いたいと考えています。それは道北で働いた経験だけではなく、他の農村地域とのつながりによって学んだことも分かち合うことによって人々が農村宣教の可能性に目

覚め、その道について開かれた気持ちを持つことを願っています。

長年の間台湾基督長老教会と築かれた協力関係も大切にしたいと思います。多くの交流のプログラムによって農伝の神学生が台湾の先住民族の神学生と出会い、お互いの経験を分かち合い、多くのことを学び合うことが出来ました。

このようなつながりを持ち続けること、また他の教派との新たな協力関係を作ることとても大切だと思えます。

日本に派遣されたカナダ合同教会の宣教師として、私が生まれた一九四八年に農村伝道神学校がカナダ合同教会の資金協力によって作られ、そして初代校長のA・R・ストーン宣教師もカナダ合同教会に派遣された神学校で自分が働くことになると思うと感激と感謝で胸がいっぱいです。

農村伝道神学校とカナダ合同教会との歴史的な関係を大切に、またこれからその交流を更に深めお互いに学び合う場を数多く作りたいと考えています。

日本に来て今年で四九年、北海道での働き四八年、名寄と道北での働き四三年になります。

多くの人々によって支えられ、祈られ、導かれ、また生かされたことを言葉で言い表

せないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。また五年おきに本国活動のためにカナダに帰り、全国を回って北海道での活動報告をする機会が与えられたことも大きな恵みでした。それによって与えられた感謝と恵みを農村伝道神学校のみなさんと分かち合いたいと思います。

子どもは三人
長女 マナ・ルツ(トロント市在住) ネイスン・恵(名寄市在住) マーティン・望(トロント市在住)

主な翻訳作業
R・S・トーマス詩集 R・S・トーマス著 日本語訳

(共訳) 一九七三年
「希望にあふれて」ジャン・バニエ著 日本語訳 (共訳) 一九七六年

「湖畔の小さな教会」星野正興著 英訳 一九八六年
「海のレクイエム」新堀邦司著 英訳 一九九五年

「チキサニの大地」宮島利光著 英訳 一九九八年
「カナダ合同教会の挑戦」アリンソン・ハントリー著 日本語訳 (共訳) 二〇〇三年

「人間に光あれ 部落解放へのメッセージ」部落解放センター出版 英訳監修 二〇一五年

《聴講生を募集します》

農村伝道神学校は信徒に開かれた神学校です。以下の講義を公開して信徒の宣教力を養成し、また教職の継続教育にも力を入れています。

神学校の豊かな自然の中で、一緒に学びませんか。聴講をお申し込みください。なお、「集中」とあるのは集中講義です。詳細は事務室にお問い合わせください。

・聴講料は(一科目) 通年三万円(半期一万五千元)です。
・科目要項 「時間割」「聴講願い」をご希望の方は事務室までお申し込みください。

・前期：二〇一八年四月一〇日(火)〜七月二二日(木)
・後期：一〇月九日(火)〜二〇一九年二月一日(金)
◎二〇一八年度聴講可能科目と担当講師(火曜/金曜順)

・教会音楽 (小海 基)
・農村伝道論I (池迫直人)
・旧約概論 (牧野信次)
・説教演習 (北村慈郎)
・説教 (北村慈郎)

・解放講座C 「性差別」 (平良愛香)
・解放講座E 「沖縄と教会」 (平良愛香)
・実践神学特講I・II (堀江有里)

・社会学 (堀江有里)
・韓国語 (盧 芝榮)
・組織神学入門 (織田信行)
・古代中世教会史 (浜田華練)
・ギリシャ語文法 (吉田 忍)
・新約概論 (絹川久子)
・新約原典I・II (吉田 忍)
・新約時代史 (山野貴彦)
・キリスト教概論(滝沢 貢)
・英書講読 (吉田 忍)
・農業実習I・II (池迫直人)
・新約特講 (山口里子)
・旧約聖書時代史(飯郷友康)
・農村伝道論II(ウイットマー)
・旧約原典I・II (飯郷友康)
・霊性とキリスト教倫理I・II (石井智恵美)
・ヘブライ語文法(高柳富夫)
・旧約特講 (飯郷友康)
・英会話 (ウイットマー)
・黙想(坐禅) (佐藤・高柳)
・新約概論 (田中健三)
・旧約概論 (高柳富夫)
・日本キリスト教史(戒能信生)
・オルガンI・II (三宮千枝)
・キリスト教教育(本田栄一)
・日本近現代史 (武田利邦)
・牧会心理学 (早坂文彦)
・解放講座D 「障がい者差別」 (島しづ子)
・世界キリスト教史(集中) (大倉一郎)
・接心 一二月一〇〜一五(佐藤 研)
・一日坐禅会 (佐藤 研)
六月一日と二〇月二三日 (佐藤 研)



◆二月二日(火) 一六日(土)佐藤研講師の指導で「接心」を行った。一四名の参加者。

◆一月三〇日(火) 今年度農村伝道シンポジウム(公開)講師・植木献氏(明治学院大学教員)

テーマ「食とキリスト教」

◆二月四日(水) 卒業論文、基礎コース修了論文発表会を行った。

◆二月二〇日(火) 今年度第二回目入学試験。二名受験し二名とも合格。齋藤織恵、鳥潟紘一。一回目と合わせ、また昨年度保留となっていた者の合格を含めて、二〇一八年度は五名の新入学生を迎えることとなった。

◆二月二七日(火) 教団より教師養成制度検討委員会来訪。教団の教師養成について協議の時を持った。

◆三月七日(水) 午後一時三〇分より第六八回卒業式を行った。メッセンジャーには荒井献氏を迎えた。「始めとしての終わり―福音の批判的伝道を」(本紙一面掲載)

◆卒業生・修了生と卒業論文・修了論文のテーマは以下の通り。

・井谷 淳(いたにじゅん) 卒業論文「世界各個被差別地域における救世主観」

・表見 聖(おもみさとし) 卒業論文「民話に於ける霊性―受難の民話『人柱』における霊性の一考察」

・川浦弥生(かわうらやよい) 卒業論文「チムグルサの共同体Ⅱ―日本基督教団」 沖繩教区のアイデンティティと霊性

―「沖繩にある将来の教会の在り方を検討する委員会」の教区全体協議会における信徒の言葉から―

・原 弓子(はらゆみこ) 基礎コース修了論文「ラテンアメリカに生きる女性たちの視点から見た解放の神学」―エルサ・タマス(Elisa Tamas)の場合―

・松田拓実(まつただたくみ) 卒業論文「環境破壊はキリスト教の産物か」―レオナルド・ボフ『生態学と解放』の第一章からの検証―

◆校長は一月二六日(日)上星川教会礼拝で、一二月一〇日(日)宿川原教会礼拝で、一月二八日(日)川崎教会礼拝と修養会でメッセージと講演を担当した。

理事・評議員会報告

神学校においては、高柳校長の任期満了による退任とウイットマー新校長の就任をひかえ、準備をおこなっている。新校長には神学校近くの住宅に居住していただく。

二〇一七年度第三回理事会・評議員会は三月二〇日に開催。新年度からの理事・評議員の選任、事業計画、予算、就業規則の変更等について審議される。

神学校に卒業生の任地に関する

する委員会を設置する。委員は校長、教師、理事、同窓生二名、計五名程度とする。幼稚園は二〇一八年度から予算、認定こども園鶴川シオン幼稚園として発足する。東京都及び町田市の指摘を受け、改修追加工事をおこなった。職員勤務体制はほぼ完成した。給食業者との交渉等をすすめている。

(書記 横野朝彦)

お知らせ

◆四月四日(水) 午後一時三〇分より第七〇回入学式メッセージ・R・ウィットマ(新校長)「水を渡る」

◆四月五日(木) オリエンテーションと始業講演

◆午後一時・始業講演(公開)

講師・平良愛香(本校教師) 題「お元氣ですか」と言わないで―H I V / エイズとキリスト教

公開です。A B教室にて。

◆四月六日(金) 午前九時～午後四時『禅キリスト教入門』オリエンテーション

講師・佐藤研氏(本校講師) 聴講希望者は事務室までお申し込みください。受講料三千元。昼食は各自持参。

なお、このオリエンテーションは四月一三日(金) 午前八時三〇分～一〇時一五分から通年の科目として始まる「黙想」(坐禅)の時間のオリエンテーションにもなりますが、この日だけの聴講も可です。

◆四月一〇日(火) 二〇一八年度通常授業開始。聴講をご希望の方もこの日から授業開始です。

2019年度入学案内

◆受験資格

- (1) 日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後1年以上(洗礼式を行わない教派については、それに準ずる)の教会生活をしている者。
- (2) 所属教会が推薦し(可能であれば)、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

◆修業年限

- 神学基礎コース：2年間(2年間で修了することも可)。
- 神学専門教職者養成コース：2年間
- 神学専門信徒宣教師養成コース：1年間または2年間

◆学費

- 入学金 60,000円(入学時のみ)
- 授業料 240,000円(年額)
- 設備費 30,000円(入学時のみ)

◆受験手続

- 次の書類を期日までに郵送または持参する。
- (1) 入学願書(本校指定の書式)
- (2) 履歴書(本校指定の書式)
- (3) 教会(牧師または役員会)の推薦書(可能であれば)
- (4) 最終学校卒業証明書(または卒業見込み証明書)
- (5) 受験料 10,000円(振り込み)

◆入学願書受付

- 第1回 2018年10月9日(火)～11月9日(金)
- 第2回 2019年1月8日(火)～2月8日(金)

◆入学試験日時

- 第1回 2018年11月20日(火) 午前9時～午後3時
- 第2回 2019年2月19日(火) 午前9時～午後3時

◆会場 本校教室

◆入学試験科目 (1) 小論文 (2) 旧約聖書・新約聖書 (3) 面接

◎入学願書一式、過去の試験問題集は、本校事務室まで請求ください(無料)。

農村伝道神学校

〒195-0063 東京都町田市野津田町2024
 Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711
 Eメール: noden@pony.ocn.ne.jp
 ホームページ: http://www.noden.server-shared.com
 振替番号
 農村伝道神学校 00160-6-18485
 農村伝道神学校後援会 00120-6-24418